**藁細工**

草履や敷物など、白川郷の日常生活で使われるものの多くは、稲わら（ワラ）を使って手作りされたものである。その一例が、あしなかと呼ばれるわら草履である。これは文字通り「半分の足」を意味し、一般的に足の半分の長さであり、つま先と足の甲だけを覆い、かかとが露出していることからその名がついた。小型化したことで、稲作の難しかった山間部では貴重な稲わらが節約された。

ワラは縄、敷物、背負子、長靴、脚絆を作るためにも使用された。これらの日用品を作るのは、一般的に男性の仕事と考えられ、屋外であまり仕事をすることができない雪の多い冬の時期に行われた。村人1人が1年間に使うアシナカは40足ほどで、1年分を作るには、冬の夜、焚き火の明かりの下で何時間も労働する必要があった。

野外博物館 合掌造り民家園では、自分だけのあしなか作りを体験することができる。ワークショップは合掌造りの家屋の中で行われ、所要時間は約2時間。予約は同館のインフォメーションで受け付けている。ワークショップでは、記念品として飾れる飾り輪のついた、1つのあしなかを作ることができる。